

「究極の楽園 長島」に日々刻々迫りつつある 自然環境破壊を告発する!!

—上関原発詳細調査による自然環境・生態系へのダメージの検証—

長島の自然を守る会 ●高島美登里

1. 上関原発計画をめぐる現状

1) 詳細調査の遅れにあせる中国電力

上関原発計画は改良沸騰水型軽水炉（ABWR）出力137.3万kWを2基建設する計画で、敷地面積約30万m²のうち約15万m²は前面海域を埋め立て、炉心部が埋め立ての境界線にあたるという前代未聞の計画である。1999年に発表された環境影響評価準備書の不備追及に始まった環境をめぐる中国電力との対立はますます熾烈さを極めていく。

原子炉設置許可申請のための詳細調査は、2006年度未終了予定であったのが、8月3日現在陸域のボーリング調査が38本、海域28本（予定は陸海各60本）と全体の半分しか終了しておらず、音波探査もまだ開始されていない。現在調査終了めどを2007年11月末までとしているが、マスコミを含め、再延長はほぼ間違いないとの見通しである。これは、2005年4月の調査開始以来、地元祝島を中心とする同年6月の5日間にわたる海域ボーリング阻止闘争や、2006年5～6月の仮橋設置阻止闘争などをはじめとする不眠不休の実力阻止闘争によるところが大きい。また、2005年9月に

長島の自然を守る会が発見した陸域ボーリングの濁水垂れ流しの告発による3ヶ月の調査中断も、大きな要因の一つになっている。

2) 加速度的に進む環境破壊

しかし、詳細調査の遅れを取り戻すための作業日程は常軌を逸しており、2007年5月25日からの祝島の漁業者・住民らによる台船搬入阻止にもかかわらず、6月中旬より水深10m以下の浅海部にボーリング台船4機、鋼製槽7機を投入し、カサシャミセンやミミズハゼ、シュジュコミミガイなど希少生物が多数確認された岩礫部やスギモク群落の真っ只中を掘削している。陸域ボーリングも田ノ浦湾を囲む魚付き保安林である照葉樹林の伐採範囲が拡大している。海岸部の地形の変化や、海底に細かい泥の堆積が増えていることも、ボーリングによる汚水の浸出や、田ノ浦湾の生物多様性をはぐくむ豊富な湧水の供給の変化によるものではないかと思われる。また、昼夜を徹しての試掘孔調査も行っており、発破による騒音や夜間照明が鳥類や哺乳類等に与えるダメージが懸念される。

■長島の自然を守る会

1999年9月に、上関原発計画の環境アセスメントの不備を追及し、予定地である長島の貴重な自然環境と生態系を保全することを目的に8名の有志で結成した。生態学会などの研究者と連携し、現地調査を通してその価値を科学的に検証し、上関原発計画の中止を中国電力や各行政機関に申し入れると共に、自然と共生する町づくりを目指し、スナメリウォッチングツアーなども取り組んでいる。現在、会員は約120名。

●助成事業申請テーマ（グループ調査研究）

上関原発詳細調査による自然環境・生態系へのダメージの検証

●助成金額

2005年度 100万円



周防灘、長島、田ノ浦の位置

中国電力による環境調査の不備追及

中電に1号機炉心付近でカクメイ科貝類確認を公表させ‘埋め立て中止’を迫る！！

守る会：'99年より6度にわたり生貝or卵塊確認
 中電：'05年まで未確認 ← 調査不備の追及
 '06年7月に1号機炉心近くで1個体確認

計画の見直し要求—生息確認場所を埋め立て予定からはずすこと

調査の結果

- カクメイ科の貝類は、文献や当社の調査によると、下図のとおり伊予灘から周防灘の広い範囲に生息していることが確認されました。
- 発電所計画地点南東部（地形改変区域外）のタイドプール（潮だまり）で多くのカクメイ科の貝類及びその卵をみつけました。（卵を顕微鏡でカクメイ科の貝類であることを確認しました。）

保全措置

- カクメイ科の貝類が生息していた埋立予定地及びその近傍のタイドプールは、埋立しないで保存します。また、タイドプールの前には自然石による堤防を設置します。

環境アセスメントの際、埋め立てからはずした最初の確認場所

中電が7月に確認した場所は1号機炉心予定地のすぐ近くようです

図1

3) 相次ぐ司法の反動判決

- ① 用地問題では炉心部分の四代地区共有地（約9000m²）について、推進派一部住民が中国電力と交わした代替契約の無効をめぐる係争中である。一審の山口地裁岩国支部判決では入会権が認められ、事業者は立ち木の伐採等を一切禁じられた。しかし、二審の広島高裁判決では日本生態学会上関アフターケア委員会や長島の自然を守る会の植生調査により、入会実態がなかったとする中国電力側の主張は退けることができたものの、反対派住民が敗訴した。「地役権の時効消滅」という中国電力ですら持ち出さなかった論拠を裁判長が勝手に引用するという全国にも例がない反動判決で、現在、最高裁に上告中である。
- ② また予定地海域の共同漁業権について、周辺8漁協のうち7漁協は1999年4月に漁業補償に同意し契約を締結したが、祝島漁協は補償契約無効で提訴している。2006年3月の一審の山口地裁岩国支部判決では漁業補償契約自体の無効は認められなかったが、知事の許可漁業・自由漁業について、漁業補償契約による不利益の受忍義務はないとの実質勝訴の判決が出た。しかし、2007年6月15日の二審広島高裁では受任義務はあるとする逆転判決が出され、現在、最高裁に上告中である。

- ③ 炉心部分の用地を含む四代正八幡宮神社地（約10万m²）は、2003年3月に売却を拒否していた宮司が解任され、2003年12月に四代正八幡宮責任役員会が売却を決議した。2004年8月19日に神社本庁が売却を承認したのを受け、同年10月5日、中国電力が売買契約を締結した。これに対抗し、解任された宮司の親族は有印私文書偽造同行使で告訴、氏子も売却を不服として山口地裁岩国支部に提訴し、係争中である。

2. 調査研究の経過

別表Iのとおり、四季にわたり、計17回の調査を行い、研究者延べ28名、一般から延べ149名の参加があった。

3. 調査研究の主な成果

2006年度の調査研究の主な成果は以下の点に集約される。

① 現地の貴重な自然環境・生態系の新たな解明による事業者や行政の追及

国の天然記念物であるカラスバトの飛翔や鳴き声の録音に成功し、テレビ局に報道させ、保全を要求し、1年間の追加調査をさせた。また日本海固有種で、瀬戸

内海では貴重なスギモク群落を発見するなど、長島の自然環境・生態系の新たな解明をし、中国電力や行政に詳細調査の即時中止を迫った。(申し入れ内容は別表Ⅱのとおり)

②ヤシマイシン近似種調査の不備追及で事業者が生息確認を公表

2001年に確定された環境アセスメントで通産大臣(当時)から追加調査を指示されているヤシマイシン近似種につき、長島の自然を守る会や生態学会の調査では数度にわたり生貝や卵塊を確認しているにもかかわらず、中国電力の調査では1個体も確認できていないことを追及し続けてきた。2006年11月の中国電力に対する申し入れの席上、事業者が2006年7月に1号機炉心付近で生貝を確認していたことを公表した。環境アセスメントの際、中国電力は最初にヤシマイシン近似種が確認されたタイドプール(潮だまり)を埋め立て予定からはずすという保全措置を講じるとしており、私たちは今回確認された生息地についても埋め立て予定からはずすよう要求した。もしそうなれば計画全体の見直しが必要になる(図1)。また、生息地が陸域ボーリング地点の直下であることから、崩落の恐れもあるとして、詳細調査の即時中止も要求している。(図2)

③湧水・地質など新たな側面からの調査研究の展開

湧水・地質など新たな研究チームの参加で、現地の貴重な生態系をより多面的に調査できた。その結果、地盤については地形地理学の専門家である小泉武栄氏が現地踏査や航空写真の分析により、長島田ノ浦の岩盤は固いが、壊れやすく水の浸透度が高いことや近年崩落した痕があることを明らかにした(図3)。また、豊富な広葉樹林から供給された地下水が湧水となって湾内に還流し、希少な生物層の生息基盤となっていることが解明されつつある。このことは、現在進行している詳細調査によるダメージを告発する新たな側面になると共に、詳細調査のデータ改ざんを監視する役割も果たすものと考えている(図4)。

④神社地裁判での植生調査からの物的証拠提出

神社地が入会地として利用されてきたことを萌芽や樹齢などの植生調査により、現地の照葉樹林が40～50年前までは頻りに利用されていたことを明らかにし、弁護士が物的証拠として提出するデータを提供した。

⑤上関原発の現状と詳細調査による自然破壊の告発の普及

上関原発問題を全国に訴えるため、従来は県内で行っていたシンポジウムを東京・京都・岡山で開催し、あらたな協力者や会員の拡大につながった。また生態学会地区会報No.60の発刊や学会発表や原水禁“ひろば”・

アースデイへの出展なども行った。(別表Ⅲのとおり)

⑥DVD & ビデオ「瀬戸内の原風景 長島」

DVD & ビデオ「瀬戸内の原風景 長島」を完成し、各地で上映活動を行った。またパネル写真・ポストカードなど長島の自然が直面している危機を広く宣伝する媒体を作成した。

4. 2007年度調査研究の課題

詳細調査による現地の自然環境・生態系の破壊は日々刻々と進んでおり、また、詳細調査終了のめどが立った時点で中国電力は埋め立て許可申請に入ると予想され、予断は許さない。

そんな折、あらたな鋼製槽を設置した海域で、2007年6月10日の会員の現地調査でクサフグの産卵シーンの撮影に成功した。山口県では光市室積海岸でクサフグが県の天然記念物に指定されており、産卵地が海域ボーリング調査予定地の真っ只中であることから、緊急に中国電力・山口県に海域ボーリング調査中止を申し入れる。

2007年度は地元祝島と連携したあらたな局面での闘いを計画している。こうした観点に立って、以下の調査研究及び活動を行う予定である。

1. あらたな知見により詳細調査によるダメージの告発・中止への圧力をかける。特に新潟県中越沖地震の教訓を生かし、地質や地盤などの調査研究を行うための研究者との連携を強める。
2. 埋め立て着工という最悪の事態も予測した予備調査などを行う。
海水汚濁度・自然放射線測定など、すでに埋め立て予定地周辺の基礎データを収集しているが、今後もより広範囲に予備調査を行う予定である。
3. 地元祝島との連携した闘いへの基礎データの収集・集約作業を行う。
4. これまでの成果を一般市民にもわかりやすく編集した書籍を刊行する。

ビデオ・パネル写真に続く広範な普及活動に活用できる書籍の刊行を準備中である。



図2

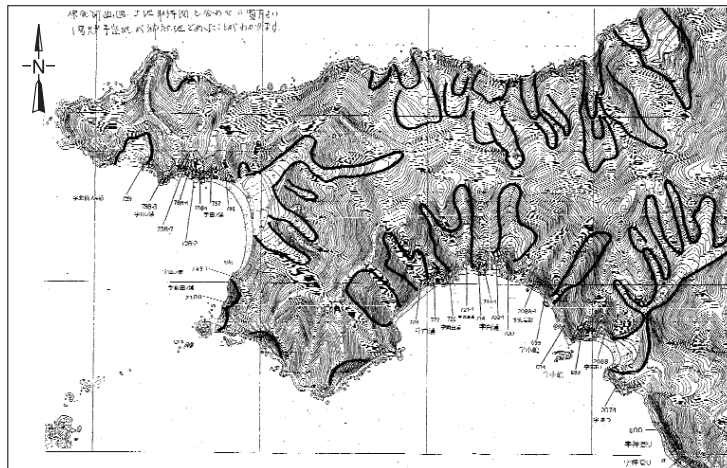


図3 1974年の航空写真による予定地周辺崩落図 (小泉武栄教授による)

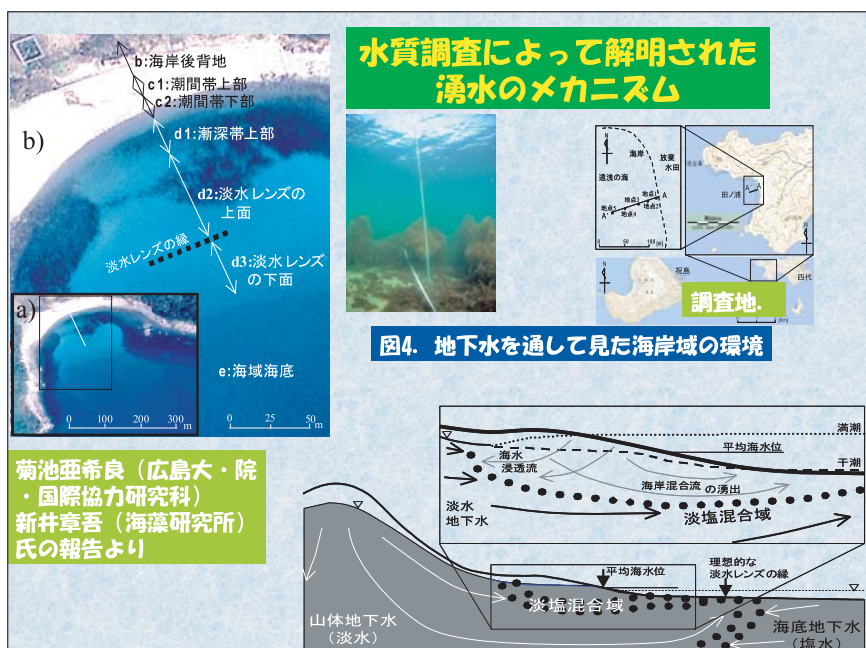


図4

別表 I 2006年度の調査研究

実施日	名称	内容	招聘した研究者名等	一般参加者数
2006.4.8～9	海水汚濁度調査	・海水汚濁度	湯浅一郎	8名
2006.4.29～30	春季自然の学校 (No.1)	・潮間帯 ・鳥類 ・哺乳類 (トラップ) ・植物	向井 宏 山下博由 金井塚務 安溪遊地 安溪貴子 花輪伸一 野間直彦 岩崎敬二	31名
2006.5.13.～14	春季自然の学校 (No.2)	・鳥類 ・神社地毎木調査	加藤 真 野間直彦 長谷川直彦	31名
2006.7.22.～23	夏季調査 (No.1)	・神社地毎木調査	加藤真 野間直彦	8名
2006.9.10	夏季調査 (No.2)	・スギモク定量調査		7名
2006.9.22～23	湧水調査	・海底湧水調査	菊池亜希良	8名
2006.10.8～9	秋季自然の学校 (No.1)	・水質調査 ・カラスバト調査	菊池亜希良	9名
2006.10.14～15	カラスバト調査	・カラスバト確認		5名
2006.10.21～22	カラスバト調査	・カラスバトの鳴き声録音 ・フクロウ、オオコノハズク映像撮影		4名
2006.11.3～5	秋季自然の学校 (No.2)	・鳥類調査 ・スギモク調査 ・湧水調査 ・地層調査 ・植生調査	梶畑哲二 新井章吾 菊池亜希良 小泉武米 安溪貴子 安溪遊地	16名
2006.12.24	鳥類調査	・鳥類		3名
2006.12.30～31	冬季調査 (No.1)	・鳥類 ・植物		3名
2007.1.6～7	冬季調査 (No.2)	・カクレミノ	加藤 真 野間直彦 安溪遊地 安溪貴子	13名
2007.2.7～9	コモンズ研究調査	・神社地裁判対象地踏査 ・共有地裁判対象地踏査 ・漁業補償裁判聞き取り ・自然環境調査	室田 武 泉 留衣	8名
2007.2.10～11	鳥類調査	・鳥類		3名
2007.3.11	腐生ラン調査	・腐生ラン標本採取、写真撮影		3名
2007.3.18	腐生ラン調査	・生育地の特定		3名

別表Ⅱ 2006年の関係機関への申し入れ活動

実施日	申し入れ先	内 容	回 答
2006.4.10	・ 山口県	・ 環境監視の強化（海底浮泥堆積 etc.）	・ 監視を継続する
2006.10.13	・ 環境省 ・ 経済産業省	・ カラスバト・オオコノハズク etc.保全要求 ・ スギモク群落の保全要求 ・ 詳細調査中止	・ 事業者に伝える ・ スギモクは情報提供と受け止める
2006.10.23	・ 山口県	・ カラスバトの保全要求 ・ スギモク群落の保全要求 ・ 詳細調査中止	・ カラスバトについては事業者が調査中 ・ スギモクは情報提供と受け止める
2006.11.27	・ 山口県	・ 詳細調査中止 ・ ヤシマイシン近似種調査不備追及 ・ 会が実施した地盤調査に基づく脆弱性の告発と詳細調査によって損なわれる環境負荷と安全性を追及	・ ヤシマイシン近似種を事業者が1号機炉心付近で確認
2006.12.5	・ 山口県・中電への抗議声明	・ ヤシマイシン近似種の保全追及 ・ スギモクの瀬戸内海における希少性を公表	
2006.12.22	・ 山口県	・ ヤシマイシン近似種の保全について事業者への指導 ・ 詳細調査中止	・ 事業者が適切な措置を講ずる
2007.1.29	・ 環境省	・ ヤシマイシン近似種の保全について事業者への指導 ・ 詳細調査中止	・ 事業者に伝える
2007.3.5	・ 中国電力	・ カラスバトの調査&保護要望 ・ アキザキヤツシロランの保全について伐採即時中止要望 ・ 詳細調査（特に陸域ボーリング）即時中止	・ アキザキヤツシロランは花の時期に確認 ・ ボーリング調査は続行
2007.3.12	・ 山口県	・ アキザキヤツシロランの保全について伐採即時中止要望 ・ カラスバトの調査&保護要望 ・ 詳細調査中止	・ 事業者が適切な措置を講ずる ・ カラスバトは長島では短期滞在

別表Ⅲ 2006年の普及活動

実施日	名 称	内 容	招聘した研究者名等	一般参加者数
2006.6.11	スナメリウォッチング & ビワ狩りツアー	・ スナメリウォッチング ・ 祝島へのビワ狩り&交流		25名
2006.6.25	広島シンポジウム	・ DVD上映「瀬戸内の原風景長島」 ・ 詳細調査のダメージ告発	湯浅一郎 金井塚務 佐藤正典 山下博由 野間直彦 安溪遊地	55名
2006.8.5	原水禁世界大会	・ 上関原発計画の現状報告		60名
2006.10.14	東京シンポジウム	・ DVD上映「瀬戸内の原風景長島」 ・ 詳細調査のダメージ告発	野間直彦 花輪伸一 長谷川直彦 粕谷俊雄 加藤 真	65名
2006.11.25	下関シンポジウム	・ DVD上映「瀬戸内の原風景長島」 ・ 詳細調査のダメージ告発	野間直彦 加藤 真 長谷川直彦 新井章吾	45名
2006.11.26	田布施シンポジウム	・ DVD上映「瀬戸内の原風景長島」 ・ 詳細調査のダメージ告発	野間直彦 長谷川直彦 金井塚務 新井章吾	60名
2007.1.8	里山再生に向けた現地交流	・ カクレミノによる金漆復活の試み ・ 里山再生のための聞き取り調査	野間直彦 加藤 真 安溪遊地 安溪貴子	25名
2007.3.10	京都シンポジウム	・ DVD上映「瀬戸内の原風景長島」 ・ 詳細調査のダメージ告発	加藤 真 野間直彦 山下博由 粕谷俊雄 長谷川直彦	50名
2007.3.11	岡山シンポジウム	・ DVD上映「瀬戸内の原風景長島」 ・ 詳細調査のダメージ告発	加藤 真 野間直彦 山下博由 粕谷俊雄 長谷川直彦	30名